

Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)



日本音楽集団

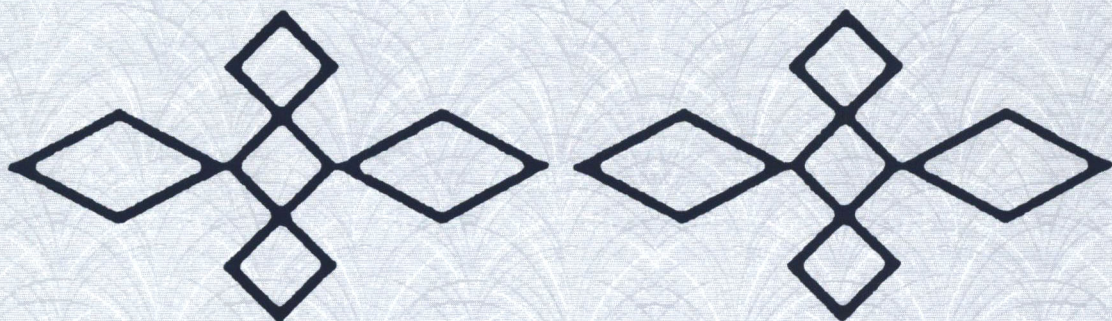
第137回定期演奏会

1995年1月27日(金)PM6:30開演●津田ホール

第六回

邦楽器の祭典

主催＝日本音楽集団
(社)日本作曲家協議会



企画・構成＝三木 稔

実行委員＝川崎絵都夫

北爪道夫

長沢勝俊 (五十音順)

司 会＝山本直純



1. 小平 光一

比翼の祭儀 II

—和太鼓群・篠笛と尺八3本のための〈1994〉(初演)

創作組太鼓チーム「初(はつ)」団長と太太鼓一人打ちによる和太鼓の打ち手としての演奏活動や、太鼓チームの指導育成活動の中から、平成6年の10月にこの作品は作曲されました。比翼とは、囃子や阿波おどり等に良く使われているはね調子の浮拍子の事で、和太鼓群はこの地打ちの刻みに、裏間アクセント打ちを多用した曲打ちを乗せてゆきます。篠笛と尺八三本がホーン・セクションとして響き、素朴でおおらかなうたをうたう事を念願します。

[篠笛] 西原貴子

[尺八] 竹井 誠・水川寿也・石田忠史

[打楽器] 黒坂 昇・立枝恵子・杉浦邦雄

2. 峰村 澄子

茜雲—二本の尺八のために(初演)

西に向かって真っすぐに道路がのびた先に、雲を真赤に染めながら今まさに沈まんとする夕陽があります。私はその夕陽に向かって、帰途につきます。

少し薄暗くなり始めた林の中に、小鳥も鳴きながら群がって帰っていき、夕暮れがやって来ます。静寂とざわめきとが、いつときあります。その刹那を尺八で表現してみました。

尺八二本の旋律は縋り合うように流れ融合します。

[尺八] 米澤 浩・水川寿也

3. 眼龍 義治

塩梅(初演)

雅楽六調子の中の壹越調調子を素材としています。箏築独特の奏法である塩梅(えんばい)(ポルタメント)が少しずつ形を変えて現われます。最初に塩梅なし(実際の雅楽では必ず塩梅が入る)の単純な音型を提示し、次に少しずつ形を変えて塩梅が奏され、一種の変奏曲となっています。十七絃は笙の合竹(あいたけ)(和音)を素材としており、BGM風に流れています。

[ひちりき] 西原祐二

[十七絃] 久東寿子

4. 杉浦 正嘉

風韻(ふういん)(初演)

風(かぜ・ふう)は一面風味・風流・風土・風趣・風情・風俗等々ともよくいわれ又風は見えないが在り、あちから来てあちに過ぎてゆく。空気の動き。空(くう・から)も面白いし、気も面白い。その動きも又面白い(暴風は一寸別)。竹筒を通したり絃をはじけば動いて音が出たりする。風は何とも妙なるものだ。奈良山の辺の道を歩いた時の風よりのイメージからまとめたものです。

[笛・尺八] 竹井 誠

[三味線] 太田幸子

5. 大政 直人

恋歌(初演)

私はこのコンサートに、第1回から3回連続で「夕影(ゆうかげ) I~III」を1曲ずつ出品してきました。このシリーズの意図は、アンコールピース的な親しみやすい小品を、というものでした。そして第4回に向けて新たな作品を書こうとした時、突然邦楽作品を書くのが怖くなり出品する事をやめてしまいました。あれから3年、スランプを克服しパワーアップした(つもり)作品を聴いて下さい。なおこの曲は、かなわぬ恋の切なさを篠笛と箏に託したものです。

[篠笛] 西川浩平

[箏] 花房はるえ

6. 村尾 幸映

六零九四—古都、奈良の四季—冬(初演)

奈良公園は総面積660ha、東西4km、南北2kmの広大な自然公園。原始林の生い繁る春日奥山、芝生が広がる中東大寺、興福寺、春日大社など雄壮かつ優雅な建物が点在し天平文化のロマンに出逢う格好の舞台である。「青丹(あおに)よし奈良の都は咲く花の匂うが如く今さかりなり」と詠まれ今国際観光都市になっています。冬枯れの中に赤い実をつけるナンテンや、ヤブコウジ、冬鳥のきびきびした動きに自然のたたずまいがあり心洗われる思いがします。

[尺八] 藤崎重康・竹井 誠 [箏] 佐藤里美

[二十絃] 熊沢栄利子 [十七絃] 大泉一美

[鼓] 杉浦邦雄

[ソプラノ] 白須弘美(助演)

7. 寺原 伸夫

邦楽合奏のための「静と動と」(初演)

「静」の主題は、ずっと以前作曲したモノ・オペラ「広島」の中のオーケストラによる間奏曲として書いたものだが、その時からいつかはこの主題で邦楽合奏曲を書いてみたいと思っていた。それにイントネーションやリズムの全く対照的な「動」の主題を加えて一曲にまとめた。初めて邦楽作品を手がけるのに、大がかりな合奏曲を書いてしまったので、どんなものが出来上がるか音にしてみないと確信がもてないというのが実態である。

[篠笛] 西川浩平 [笙] 西原貴子 [ひちりき] 西原祐二
[竜笛] 藤崎重康 [尺八] 米澤 浩・水川寿也・石田忠史
[細棹三味線] 工藤哲子 [太棹三味線] 田中悠美子
[箏] 桜井智永 [二十絃] 熊沢栄利子 [十七絃] 大泉一美
[打楽器] 望月太喜之丞・立枝恵子 [指揮] 田村拓男

8. 愛澤 伯友

朽葉(くちは) (初演)

日本の伝統的な色の名前をタイトルにした、一連の邦楽作品のひとつとして作曲した。ひとつの形が、次の形へのもとなり、向きを変えながら次々と移ろいでゆく。タイトルの「朽葉」は、黄褐色系の薄い茶色を指す。冬枯れして立つ木の色であるが、その内には、春への息吹が、私には感じ取れる。これまでの邦楽作品の、いわば目録的な役割を果たす。

[尺八] 三橋貴風
[箏] 吉村七重・桜井智永
[十七絃] 大島菜穂子

9. 川崎絵都夫

星涼之賦

この曲は「箏五人展」(井原潤子、川村昌子、樋口真知子、宮崎孝子、和久文子の各氏)の委嘱により作曲し、1993年10月の「箏五人展V」で初演されたものです。全5曲の中から1曲目の一部と5曲目をお聴き下さい。

I. むづら星(冬) プレアデス星団。和名は昴(すばる)。冬の凜とした大気の中の青白い星群は大変美しいものです。

V. シリウス(冬) 冬の南東の夜空に輝く全天一明るい星。中国名は天狼星と呼ばれます。

[箏] 熊沢栄利子・大島菜穂子・桜井智永・久東寿子
佐藤里美

10. 草野 次郎

2本の尺八と箏、十七絃の為の「炎舞」(初演)

尺八と箏を対位的に扱いそこから生じるエネルギーでもって原初的な「舞」の世界を描こうとスケッチを始めました。曲の冒頭は2本の尺八が「舞」へのきっかけを模索し「舞」の中心に入ります。次第に勢いをつけ、速いフーガ風の部分に入り動きの密度を圧縮しつつクライマックスで曲を閉じます。今回は邦楽の初心者の方が楽しめるようにと書いたわけですが、仕上がってみるとやはり弾き辛い部分が多々あり課題山積と言った所です。

[尺八] 米澤 浩・石田忠史
[箏] 花房はるえ
[十七絃] 大島菜穂子

11. 見目順一郎

系譜 (初演)

「竹」は「尺八。でもあり」「木管楽器。でもあり」、「東洋。でもあり」「西洋。でもあり、それ故にこそ、そのいづれでも無いところに絶対普遍的な「竹」が現成し得る。——たまたま読んでいたジャック・デリダの『他の岬』の中で、「脱構築的系譜学 [généalogie déconstructrice]」という言葉に出会い、私なりの系譜学によって前述の、歴々の竹、に取り組もうとしたのが、今回の狙いである。

[尺八] 藤崎重康・水川寿也・石田忠史

12. 大田 桜子

倭歌(やまとうた) (初演)

1994年秋、二十絃の豊かなひびきと、尺八の少しもの悲しい、風の流れのような音で、私の頭の中は満たされました。この二つの邦楽器で、日本人である私の心の奥底に流れている、旋律をひき出し、尺八2本と二十絃箏で、歌を作って見ました。

[尺八] 三橋貴風・藤崎重康
[二十絃箏] 吉村七重

13. 宗 像 和

勸酒(其の一)—唐詩選・于武陵作によせて (初演)

「勸酒」は井伏鱒二さんの唐詩名訳『「サヨナラ」ダケガ人生ダ』の原詩。勸君金屈危(キンクツシ)「コノサカヅキヲ受ケテクレ」、満酌不須辞「ドウゾナミナミツガシテオクレ」。前半の二行だが、そこまでを其の一として作曲した。これは別離の詩だが唐詩の「別れ」は、はじめめせず、友誼は濃く、朗々として屈託なさそうに、実は奥が深い。その気宇に近づきたい気持ちで書いた。同じテーマで先頃「箏・三味」のために《定離(じょうり)の賦》を書いた。

[篠笛] 西原貴子 [尺八] 米澤 浩
[三味線] 工藤哲子 [琵琶] 石田さえ
[二十絃] 熊沢栄利子 [十七絃] 大泉一美
[打楽器] 黒坂 昇 [指揮] 田村拓男

14. 佐野 芳光

ワイルド・ボイス—邦楽器のための (初演)

邦楽器に対するイメージは一般的には、優雅さ、のどかさ、上品さという印象が定着していますが、私はどちらかといえば邦楽器が所有する独特の野性味、素朴さ、荒々しさ、力強い躍動感、といったものにより一層興味を覚えています。そのようなワイルドな一面を引き出せたらという思いでこの曲を書きました。

[篠笛] 竹井 誠
[尺八] 三橋貴風
[三味線] 太田幸子・坂口美香
[琵琶] 山田まゆ美・石田さえ
[十七絃] 大島菜穂子・久東寿子
[打楽器] 望月太喜之丞・杉浦邦雄

日本音楽集団今後の予定と主な演奏曲目

2月5日(日)	日本音楽集団演奏会(二つの舞曲、八郎物語他)	愛媛県生涯学習センター
2月10日(金)	関市中学校音楽鑑賞会	関市文化会館
3月2日(木)	竹取物語～日本音楽集団の調べと語りへのせ(竜女の玉他)	かつしかシンフォニーヒルズ
3月4日(土)	第3回戸塚区芸術鑑賞事業「日本音楽集団演奏会」(八郎物語、わ他)	東戸塚教育センターホール
3月19日(日)	第9回倉敷音楽祭に参加(ファンタスマゴリア、巨火他)	倉敷市芸文館
3月29日(水)	九州音楽フェスティバルのオープニングに参加(「四季」ダンス・コン他)	熊本県立劇場
5月13日(土)	目黒子ども劇場(①八郎物語他 ②「四季」ダンス・コン他)	目黒公会堂
5月13日(土)	「日本の音とこころ展・Part II」に出演(古代舞曲によるパラフレーズより)	サントリーホール大ホール
5月25日(木)	第138回定期演奏会～春のコンサート	津田ホール
5月28日(日)	多治見公演(「四季」ダンス・コン他)	多治見市文化会館

第138回定期演奏会プログラム

- 一、シンフォニエッタ・ルラーレ(1992年) 上野耕路作曲
- 二、青少年のための音楽図鑑Ⅰ「風物語」(委嘱・初演)※ まえだ純作・服部公一作曲
- 三、七重(1988年) 西村朗作曲
二十絃箏独奏 吉村七重
- 四、竹取物語より「竜女の玉」(1976年) 海津勝一郎作・長沢勝俊作曲
語り 稲垣隆史(劇団「民芸」・客演)

※青少年のための邦楽器入門といったもので、歌物語を楽しみながら同時に邦楽器のことも学べる作品の登場です。海外公演の際にも使えるように日本語版・英語版両用が同時に誕生します。

〒151 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437